



平成28年度 横浜市立宮谷小学校 学校だより 7月号

# みやがや

＜学校教育目標＞

響き合う豊かな学びの中で自分を見つめ互いに思いやる子を育てます

【知】 学び合う楽しさを知り、問題解決に向け主体的に取り組む子を育てます。【学び合い】

【徳】 社会や学校のきまりを守り、やさしく思いやりのある子を育てます。【思い合い】

【体】 お互いの生命と体を大切に、生涯を通してよりよく健康な生活ができる子を育てます。【気づき合い】

【公・開】さまざまな人々と豊かなかかわり合いを大切にしながら、わたしたちのまちに誇りをもって生活する子を育てます。

【かかわり合い】



## Mary Sue

学校長 奈良輪 孝雄

昭和2年3月に国際親善使節の人形がアメリカから宮谷小学校へ贈られました。その頃の日本とアメリカの関係はあまり良い状況ではありませんでした。24年間にわたり日本で宣教師・英語の先生として活躍したギュリックさんは心を痛め「世界の平和は子どもたちの友情から。アメリカの子どもから日本の子どもへ人形を贈ろう。」と呼び



かけたそうです。運動は瞬間に、アメリカ中に広がり、約1万2千体の人形が集まり、ひな祭りに合わせて、日本の小学校や幼稚園などに贈られました。その1つが宮谷小学校にも届いたのです。しかし、その人形は今、宮谷小学校には存在しません。太平洋戦争のため取り除かれたと考えられます。

そして、平成21年8月22日にギュリックさんの孫であるギュリック三世さんが、「日米友情人形」である「メリー スー」を宮谷小へ贈ってくださったのです。ギュリック三世の奥さま手作りの衣服や旅行カバンも添えてくださいました。また、犬のぬいぐるみも一緒にいます。職員玄関のわきのケースに展示してありますので、ご来校の際はご覧ください。そのギュリック三世ご夫妻が6月1日に再来日され、人形の家で歓迎セレモニーが行われました。メリー スーと共に私も参加しました。お二人の優しいお人柄に魅了されました。



ギュリック三世ご夫妻

昭和2年に「平和と友情」のシンボルとして来日したはずの青い目の人形が、時代の流れで数奇な運命をたどりました。そして、また新たに交流が生まれました。これから先、何十年、何百年もメリー スーが宮谷小そして日本・世界の平和を見つめてくれると信じています。人形のこれからの運命と共に、未来を担う子どもたちに期待します。

子どもが平和について考え、国と国の間にある善意に気づいてくれたなら、彼らが大人になったときに戦争などしないだろう。

Sidney L.Gulick

